

新基地建設反対名護共同センターニュース

「オール沖縄」はさらに深く強くなった!



全印総連女性部も参加

ゲート前集会には、本土の労組・全印総連女性部のツアー20数名も参加。稲嶺市長や赤嶺議員と記念撮影(写真)、スクラム組んでたたかいの歌を合唱するなど交流しました。



「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」は4日、総選挙後初の第1土曜日集中行動を辺野古ゲート前で約600人超の参加で行いました。参加者から大きな拍手、歓声で迎えられた赤嶺政賢、照屋寛徳両衆院議員が「自民党はオール沖縄が弱体化したと言っていたが、選挙結果でオール沖縄は盤石であることを示した」と報告しました。

稲嶺市長「三選勝ち取り基地造らせない」
 稲嶺市長は「2月の市長選挙で必ず勝利し、翁長雄知事を支え、辺野古新基地建設を必ず阻止する」と力強く決意を表明しました(写真左)。

赤嶺選対の共同代表を務めた共産党の渡久地修晃議員は「これまでにない広範な人々に支えられて赤嶺当選を勝ち取った。オール沖縄は、がじゅまるのように深く強く根を張っている」と報告。保守中道の地方議員の政策集団・ぬにふあぶしのメンバーがリレートークし、大きな拍手を受けました。糸数慶子参院議員も集会前の座り込みに参加しました。

総選挙後初のゲート前土曜集会に600人
 赤嶺、照屋両衆院議員迎え大きな歓声上がる

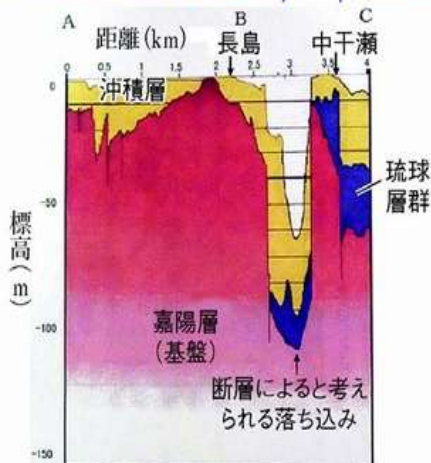
大浦湾に活断層がある可能性が大きい 「政府は税金で調査した結果を公表すべき」



加藤琉大名誉教授がゲート前で報告 テント村 250人が聞き入り活発な質疑も



右の図は、大浦湾の地形図で、沖積層(沖積層)と嘉陽層(基盤)の境界線が示されています。この境界線が、活断層の存在を示唆していると考えられています。また、この断層による落ち込み(断層による落ち込み)も示されています。



ヘリ基地反対協は2日、辺野古ゲート前テント村で「大浦湾の活断層問題」について加藤祐三琉球大学名誉教授から報告を受けました。テント村では約250人の県内外からの参加者が聞き入り、活発な質疑も交わされました(写真上)。

加藤教授は、「大浦湾には辺野古断層と楚久断層が走り長島近くでV字型に交差している。そこが50m近く沈下しており、比較的新しい落ち込みであるなら海底活断層が伸びている可能性が濃厚だ」と指摘しました。

活断層なら津波や地震で新基地は破壊される

加藤教授は、仮に活断層の上に新基地を建設した場合「いくら基礎を深く打ちこみ頑丈にしても、いや頑丈にすればするほど津波や地震で新基地が破壊され、燃料や放射性物質などが海や付近の集落に広がる可能性がある」と話しました。

そのうえで加藤教授は「政府・防衛局は巨額の税金を投入しポセイドンなど最新鋭の調査船や電波を使って地質調査を行っており、その結果を国民に公表すべきだ」と調査結果を公表しない政府を厳しく批判しました。